令和6年度　第3回タウンミーティング

和佐谷町会とのタウンミーティング

日　時　　令和6年5月1日（水）18:30～19:30

会　場　　和佐谷町公民館

参加人数　21人

1）開会

2）和佐谷町会長　ご挨拶

3）市長　市政報告

〇はじめに

・この和佐谷町公民館を６月から取り壊し、年内に新しい公民館が完成すると聞いている。ぜひすばらしい公民館を建てられ、多くの皆さんがここに集い、和佐谷町がますます発展するよう後押しをさせていただければと思っている。

・「折り紙で作った電車の最多展示数」でギネス世界記録を更新した。これまでは佐賀県嬉野市が西九州新幹線開業時に作った１万9,000枚がギネス記録であった。その記録を北陸新幹線県内全線開業に合わせて更新しようと、新幹線開業日にかけて目標枚数を２万243枚と設定して挑戦したところ、能美市の人口約５万人の２倍強である12万枚が集まった。ただ、審査の結果、基準を満たせないものがあり、記録は８万2,034枚となった。この数値を覚えていただくために即興で「やったぜ、にっこり、の、み、し」という語呂合わせを考えた。現在、市役所で折り紙やギネス世界記録認定証の展示をしているので、ぜひご覧いただきたい。

〇令和６年能登半島地震

・能美市でも震度５強を観測し、約1,200件の罹災証明書が出されているが、人的な被害はなかった。特に大きな被害としては、緑が丘でのり面が崩れたことによる市道崩落があげられ、復旧にあと３か月ぐらいかかりそうな見込みである。この他、下水道マンホールの隆起・陥没、美化センターののり面崩壊、神社の鳥居・灯籠倒壊、九谷焼の破損等があった。

・元日に地震が発生したことにより、避難所の設営が少し遅れたケースがあった。高いところに避難しようと学校に行かれた市民がたくさんいらっしゃったが、学校の先生や鍵を持っている人が近くにおらず、ガラスを割って中に入られたケースもあった。

・市内の復興・復旧に当たるとともに、大きな被害が発生した能登への支援も並行して行い、能登へ市職員の出向、消防車や救急車、給水車、パッカー車の派遣、支援物資の受付・運搬等を行ってきた。また、能登からの避難者受け入れのため、市内の旅館やホテルに二次避難所、辰口福祉会館に広域避難所を開設するとともに、市営住宅や民間のアパートを借り上げ、みなし仮設住宅として無料で貸し出した。友人や親戚のご自宅に身を寄せられている方もあわせて、ピーク時で約250名、今も140名ぐらいの避難者の方が市内にいる。一緒に避難してきた犬・猫への対応も行った。

・サポート窓口を開設して、避難者の皆さんの様々なご要望をお聞きし、困りごとに対応している。また、運動不足解消のための教室開催や、通院や買い物の移動支援、散髪、趣味の安らぎ時間の提供等も行っている。

・被災者の避難生活はまだ長く続くので、被災地の復興・復旧が果たされるまで心に寄り添った対応していきたく、ぜひ和佐谷の皆さんのご理解、ご協力をお願い申し上げる。

〇能美市を取り巻く情勢と課題

・人口減少、少子高齢化、社会インフラの老朽化等、いろいろな課題や問題がある。公民館や道路、橋、そして特に能美市は小中学校も古くなってきている。自然災害だけではなく、事件や事故もあり、鳥獣被害、熊の出没も増えている。

・企業誘致が好調な分、人財が不足がちとなっている。特に大きな会社が来ると、その会社に勤めるために、地元の会社から移ってしまうというような事例があり、人財をどうや

って確保していくかという問題がある。

・市税の税収がすごく好調で、令和元年に初めて90億円を超え、令和４年に最高額、令和５年も恐らく同じくらいになるだろうと予測している。この背景にあるのは、企業誘致である。企業が来ると、その分の法人税が入るとともに新しい建物を造るということで固定資産税が入る。特に半導体関係の会社は建物だけではなく、工場内の機械も非常に高額であり、固定資産税の増収に繋がっている。

・福島グランパークにも企業の進出があり、多くの従業員を雇用することとなっている。性別や世代を問わず、働ける場所が市内に増え、大変ありがたい状況である。

・北陸新幹線が県内全線開業したが、今、様々な課題も見えてきている。

〇令和６年度当初予算

・過去最高額の275億円6,000万円を当初予算に計上している。

〇事業・施策の方針と目的

・事業・施策の７本柱は、全て移住・定住の促進につながるという方針でやっている。私は自治体の勢いを示す数値は人口だと思っている。人口増には自然増と社会増があり、今、日本のほとんどの自治体と同じように能美市も自然減となっている一方、能美市は社会増となっている。ただ、自然減を社会増で補えず、少し人口が減ってきている。ちなみに、こちらの和佐谷町はどうかというと、やはり日本の状況と同じように人口は減ってきてはいるものの、世帯数はそんなに変わっておらず、10年前と比べると少し増えている。人口についても、小学生は多いときはあったが、そんなに変わっておらず、ぜひこの状況を皆さんで死守していただければと思う。

（防災減災対策）

・能登半島地震を受け、耐震改修やブロック塀の除去等をするための補助額を増やした。

・能美市では、紙のハザードマップで避難所等を示しているが、避難時にまず持っていくものはスマートフォンなので、今デジタル化を進め、スマートフォンでハザードマップや防災情報を見られるようにしようとしている。

・一昨年の大雨を受け、様々な対策をしており、その一つが手取川宮竹用水と協定を結び、宮竹用水を大雨のときに排水路として使えるようになったことである。これによって、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことができ、内水被害に対して大きな効果が出るようになった。また、ある一定量以上の水が流れてくると、川の岸壁が壊れるという可能性があることから、雨を川に流さずに田んぼにためてもらう田んぼダムも検討している。
・梯川に流れる鍋谷川や舘谷川でも様々な工事をしている。また、西川、熊田川は手取川の水が多くなるとバックウオーターするので、それを和らげるために樋門を造る工事を進めている。
・今年の７月は、昭和９年の手取川洪水から90年を迎える節目の年であり、先人の皆様に感謝を申し上げ、洪水の教訓を忘れないようなイベントをやりたいと企画している。
・個別避難計画の作成を進めており、身体が不自由な人や高齢者等が災害時に取り残されずに避難できるようにする。
・災害情報をいつでもどこでも受け取れるようＬＩＮＥを導入した。災害情報だけではなく、様々な能美市の情報も簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

（市民力・地域力の強化）
・ボランティアや町会・町内会の活動から、能美市の市民力・地域力はとても高いと思っていたが、社会の価値観の変容で今、壮年団や女性会、老人会等の人数がだんだん減ってきている。これまでは、情報交換や勉強の場として、壮年団等に入りたい人が多かったが、今はスマートフォンがあれば、その場に行かなくても会話や情報を取得できるようになった。そうなると、市民力・地域力、いわゆる互助・共助の力が弱くなる恐れがあり、これを再度強化しなければならないと思っている。ただ、冒頭申し上げたとおり、12万枚の折り紙が集まったことから、能美市はまだまだまんざらでもないなと感じている。
・市民力・地域力強化のための取り組みの一つとして、来年２月に能美市が誕生して20周年を迎えることから、様々な事業やイベントを行おうと計画している。行政だけでなく、町会・町内会にも何かやっていただきたいと思い、補助金を出すこととした。基本額が20万円で、50世帯ごとに２万円となっているので、ぜひ何かに使っていただきたい。
・能美市の歴史をしっかり調べて、将来に残しておくため、市史の編さんを行っている。
・民生委員・児童委員の確保のため、活動費を少し上乗せする。

・新型コロナウイルス感染症が拡大しているときは、なかなかできなかったイベントや文化関係の発表会、スポーツの大会の開催数が増えるようにしたい。
・市内の小中学校に通っている生徒、児童全ての学校給食の無償化を行った。
・健康でないと、市民力・地域力を維持できないことから、がん検診への支援を行う。今、日本人は２人に１人、がんに罹患すると言われており、早期発見・早期治療が重要となっている。医療の進歩により、今がんは不治の病ではないと言われているので、ＤＷＩＢＳやＰＥＴ検診等の新しい検査も市民の皆さんに受診してもらえるような機会を増やすため、検診費用の助成額を増やす。
・能美市の小学生は虫歯率が高いと聞いているので、フッ化物洗口を取り入れる予定である。

（地域ブランドの確立）
・幸福度や暮らしやすさ等を市民に調査したウエルビーイング指標によると、市民が能美市の弱みと感じたところが３つあり、「買物・飲食」「遊び・娯楽」「移動・交通」であった。ただ、「遊び・娯楽」の部分では、市内には、いしかわ動物園や手取フィッシュランド、辰口丘陵公園、アドベンチャーガーデン能美、九谷陶芸村、松井ベースボールミュージアム等があり、県内でこれほど揃っている市町は他にないと思う。「買物・飲食」も、のみ商業協同組合の加盟店が多く有り、ドラッグストアも最近増えてきている。
・市民の満足度を高めるために、新しい商業施設の開設や遊びの場所をリニューアルしていきたいと考えている。その一環として、大型犬も遊べるように和気の岩にあるドッグランのリニューアルや公園の整備も少しずつ行っていきたい。また、辰口フラワーハウスの跡地に道の駅機能を持ったような場所を設けたい。九谷陶芸村にある体験館もおしゃれに改修する予定なので、ぜひ皆さん、ご友人や親戚を連れて遊びに行ってもらえればと思っている。
・地元の農業を後押しするため、農業のデジタル化や地域振興作物の生産奨励、６次産業推進等の取り組みを行っている。

（ゼロカーボンシティ）
・今、能美市でもゼロカーボンシティへの挑戦を始めている。例えばＬＥＤ化や車のハイブリッド化、太陽光発電など再生可能エネルギー導入等である。

・ごみを減らすこともＣＯ$_2$の削減につながるので、コンポスト購入費の補助制度をもう一度設けた。このほかにも様々なＣＯ$_2$削減の対策をやっていきたいと思っているので、ぜひ皆さんにもご協力いただきたい。

（インクルーシブシティ構想）

・インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味であり、能美市に住んでいらっしゃる健康な人も、障害をお持ちの人も、高齢者も、子どもも、外国人も、全ての人が安心・安全、快適に暮らせるというのが地域共生社会、インクルーシブシティである。その実現に向けて、デジタルの力を使って様々な取り組みを行おうというのが、スマートインクルーシブシティ構想である。令和４年度から取り組みを初め、３年目に突入した。

・これまでの取り組みの一つとして、医療介護情報連携システムを構築したことがあげられる。これによって、必要なときに情報を共有し、支援に役立てることができるようになった。

・ＩｏＴ家電で、「今日は５月１日水曜日です」「今日の天気は曇りです」「ご飯食べた？」「おやすみなさい」等と話す空気清浄機がある。たくさんのセンサーがついていて、人の動きを読んで、生活リズム等を把握することができる。そのうち「能美市に大雨洪水警報が出されました」とか「能美市から避難指示が発令されました」ということまでお知らせできるようにしていく。市内の一人暮らしの方で、やりたいという人、約100人を対象に実証試験を始めている。

・今年度からデジタル公民館として、スマートフォンで注文した商品を公民館に届ける「スマート物流」や配車を手配する「ライドシェア」、公民館でオンラインによる医師の簡単な診察を受け、薬の処方を受ける「オンライン診療」に取り組もうと考えている。

・能美市内の病院、クリニックを全て同じ電子カルテにする取り組みを始めている。カルテが共有化され、他の病院で検査した内容を別の病院で見られるようになり、再診が早くなったり、医療費が安くなったりする。東日本大震災のときにカルテが流され、診療情報がわからなくなったが、電子カルテにすることでそれも防ぐことができる。実は、石川県ではＩＤ－Ｌｉｎｋとしてその仕組みがもう既に出来上がりつつあり、能登半島地震の時に役立った。ただ、病院によってはまだ対応しておらず、紙で管理しているところもある。災害時のためにも電子カルテ化はすごく重要なので、能美市としてもこの取り組みを進め

ていきたいと思っている。

・電子通貨を導入し、皆さんのお買い物の利便性が高まるだけではなく、これまで広報に掲載したり、郵送したりしていた「のみ応援特典券」等を電子で送れるようにしようとしている。

・先ほど申し上げた「スマート物流」や「オンライン診療」だけでなく、公民館を子どもたちがＧＩＧＡスクール構想でパソコンを持ってきて勉強する場所、子育て世代の人たちがスクリーンでｅスポーツを行う場所、高齢者がスマホ教室とか出前講座を行う場所等、多世代間が一堂に集まって交流できる場所にしようとしている。デジタルの力を使って公民館を大いに活用してもらいたいので、ぜひこの和佐谷公民館にモデルケースとなってもらいたい。

4）閉会